

# 日本データベース学会初代会長 上林弥彦先生の突然の死を悼む

Mourning over the Sudden Death of  
Prof. Yahiko Kambayashi, the First  
President of the Database Society of Japan

増永 良文<sup>\*</sup>

Yoshifumi MASUNAGA

我が国のデータベース界を率いてきた上林弥彦先生が平成16年2月6日に脳内出血でお亡くなりになった。あまりにも、突然であり信じられなかった。享年60であった。上林弥彦先生は日本データベース学会の初代の会長を務められた。この『日本データベース学会 Letters』も、学会創設にあたり、上林先生が強く主張されて刊行された経緯がある。我が国のデータベース研究者で上林先生の名前を知らない人は一人もいないであろう。それほど、上林先生の残してこられた足跡と影響力は偉大であり絶大であり、我が国のデータベース界の真のリーダーであった。厳しさの中にも、人を惹き付けてやまないウィットとユーモアがあり、人は彼を敬った。巨人を失い、我が国のデータベースコミュニティはこれからどこに行くのであろうか。

Prof. Yahiko Kambayashi died of cerebral hemorrhage on February 6, 2004 in Kyoto. It was so sudden, and was unable for me to understand it. He was at age 60. He was the first president of the Database Society of Japan. In establishing the society, he strongly insisted the necessity to keep on publishing an academic journal that is why the "DBSJ Letters" are here. The author believes that everyone knows his name if he/she engaged in database research area. Prof. Kambayashi was the real leader of the Japanese database society. Although he was severe and critical in learning, he was gentle and his talk was always seasoned with wit and humor. Therefore everyone adored him. The author is anxious about the future direction of the Japanese database society without having such a gigantic scientist.

## 1. 突然の訃報

平成16年2月4日(水)の午後9時半過ぎに、本会理事の東京大学生産技術研究所教授の喜連川優先生より上林弥彦先生が倒れられたと、携帯電話に第一報が入った。信じられぬことと電話を切った直後に、本会副会長の京都大学大学院情報科学研究科教授の田中克己先生から、これまた携帯電話に上林先生のただならぬ状況を伝える電話が入った。その後、私から然るべき先生に電話した。皆一様に衝撃を隠しえなかった。聞くとところによれば、上林先生は2月4日の昼に不調を訴えられ、意識を失い京都第一日赤病院に緊急入院されたという。CTスキャンの結果、脳幹部分での脳内出血であることが判明、同日夕刻には昏睡状態となられたという。翌5日には、

<sup>\*</sup> 会長 お茶の水女子大学理学部情報科学科  
[masunaga@is.ocha.ac.jp](mailto:masunaga@is.ocha.ac.jp)

人工呼吸器を付けていない状態の上林先生をお見舞いすることのできた人がいたという情報もあり、これはひょっとすると奇跡が起こるかもしれないという淡い期待を持ったが、2月6日朝4時42分、病院スタッフやご家族の必死の看護の甲斐なく息を引き取られたという。発病されて1日半あまり、余りにも突然の死であった。

上林先生のご逝去は2月6日の朝早く名古屋大学教授の吉川正俊先生から第一報が入った。それを聞いた私は、体が震えた。程なく田中克己教授とも連絡がとれた。通夜と告別式をどこで行うのか、その情報を待って、本会のメーリングリストであるdbjapanとACM SIGMOD日本支部のメーリングリストsigmod-japanに訃報を流すこととした。ACM SIGMOD日本支部長の筑波大学教授北川博之先生と連絡を取り、このメールは、両メーリングリストに、本会会長名とACM SIGMOD日本支部長名の連名で流すこととした。実際には、同日の午前10時41分に送信したのだが、送信ボタンをなかなかクリックすることができなかった：私は、何か悪い夢を見ているのではないだろうか、上林先生は本当はお亡くなりになってはいないのではないだろうか、こんなメールを流してしまって私は取り返しの付かない馬鹿なことをしようとしているのではないだろうか、さまざまな思いが頭をよぎった。もう一度、自分の携帯電話の着信履歴を見る、送信履歴を見る、確かにそこには早朝の吉川先生からの着信履歴が残っている。間違いなく吉川先生は上林先生がお亡くなりになったと言った、田中克己先生との交信記録がある、確かに葬儀のことで話をした、空耳ではない、現実には起こっていることなのだ。自分で自分を納得させて送信ボタンをクリックするまでにどれだけの時間を要したのであろうか。

お通夜は2月6日の夜に、葬儀と告別式は2月7日の午後に、上林先生が犬を連れて散歩するのが好きだったという、京都市左京区黒谷にある浄土宗の寺、浄源院で執り行われた。葬儀には数百名が集い最後の別れを惜しんだ。京都大学前総長の長尾眞先生、上林先生の恩師であられる京都大学名誉教授の矢島脩三先生、上林先生の2年先輩である京都大学大学院情報学研究科教授の茨木俊秀先生が弔辞を述べられた。長尾先生は上林先生がおできになるからつつい仕事をお願いしてしまったと、矢島先生は上林先生は天才であったと、茨木先生は上林先生はスーパーマンであったと、異口同音に上林先生の超人的な偉業を賞賛した。(図1に在りし日の上林先生)



図1 在りし日の上林弥彦先生

Fig. 1 Prof. Yahiko Kambayashi while in life

## 2. 上林先生の思い出

上林先生と私はほぼ同年で、出会いは我々が大学院生であったころに遡る。上林先生は京都大学の院生、私は東北大学の院生で、上林先生は論理回路、私はオートマトンを研究していて、1970年に共にそれで学位をとった。電気通信学会や

情報処理学会の全国大会で同じセッションに参加することが多く、共に結構辛つな質問をすることで、お互いがお互いを認知しあった仲だった。1970年頃のことである。

データベースでの決定的な出会いは1977年に起こった。当時、私は、1975年から1977年にかけて2年間、オーストリア国ウィーン市近郊にあるIIASA (International Institute for Applied Systems Analysis)のコンピュータサイエンス部の研究員であった。IIASAに赴任したときはオートマトンの手法を用いたコンピュータネットワークのプロトコル解析の仕事に従事していたが、西ドイツIBMから派遣されてきたDr. Gerhard Rahmstrofに啓発されて、遅ればせながらそこでDr. Ted CoddがCACM (Communications of the ACM)に発表したかの有名な論文を読み、迷うことなくリレーショナルデータベースをライフワークにしようと思心に決めたのであった。帰国する1977年秋に東京で開催された第3回大規模データベース国際会議(3rd VLDB)に向けて、ウィーンから関数従属性に関する論文を投稿した。それはあっけなくrejectされてしまったが、日本ではまだリレーショナルデータベースの研究は誰もやっていないだろう、と意気込んで3rd VLDBに参加してみると、そこには上林さんがいて大変驚いた。聞けば、日本では重点領域研究「広域大量情報の高次処理」が実施され、恩師矢島先生から「上林君はデータベースをやりたいまえ」と言われてデータベースを始めたのだという。3rd VLDBでは、現九州大学教授、当時富士通の牧之内顕文氏の第1正規形に注文をつけた反骨論文が通っていた。

それから、ずーっとデータベースの道を同じく歩くこととなった。上林先生の凄さは、あえて私がここで書く必要もないであろうが、次章でその概略を紹介する。

### 3. 上林先生の足跡と偉業

上林先生の足跡と偉業を紙面の許す限り書く、とても紙面が不足していることは承知のうえで。

**学歴:** 昭和40年京都大学工学部電子工学科卒業、昭和42年同修士課程修了、昭和45年同博士課程修了。工学博士。

**職歴:** 昭和45年京都大学大型計算機センター助手、昭和46年イリノイ大学 Visiting Research Associate、昭和48年京都大学助手、12月同講師、昭和51年同助教授、昭和59年九州大学工学部教授、平成2年京都大学工学部教授、平成6年同大学院工学研究科教授、平成10年同情報学研究科教授、平成15年同研究科長。

**研究:** 社会的応用を念頭において、分散情報システムの基礎技術である分散データベース技術、グループウェア技術について主に研究してきた。また、応用分野としては特に分散教育と地理情報システムについて取り扱ってきた。データベースの基礎、グループウェア技術、計算機による遠隔教育支援、地理データベース、論理設計手法の改良とデータベースとの統合、ウェブウェアハウス、の研究を積極的に推進した。平成14年京都大学21世紀COE「知識社会基盤構築のための情報学拠点形成」拠点リーダー。

**国際会議:** VLDB Endowment 委員、IEEE RIDE 運営委員、CODAS 運営委員、DASFAA 運営委員会委員長、FODO 運営委員、Coopls 運営委員。IEEE International Workshop on Interoperability in Multidatabase Systems (1991)、Far-East Workshop on Future Databases (1992)、IISF/ACMJ International Symposium on Computers as Our Better Partners(1994)、Cooperative Database Systems (1996)、The IPSJ International Symposium (1997)、International

Conference on Conceptual Modeling (1998)、Cooperative Database System(1998)、The 1st International Conference on Data Warehousing and Knowledge Discovery(1999)、The 2nd International Conference on Data Warehousing and Knowledge Discovery (2000)、The 1st International Conference on Web Information Systems Engineering(2001)、The 3rd International Conference on Data Warehousing and Knowledge Discovery (2001)、The 2nd International Conference on Web Information Systems Engineering(2001)。

**所属学会:** ACM、電子情報通信学会、ソフトウェア学会、人工知能学会、日本データベース学会、IEEE フェロー、情報処理学会フェロー、電子情報通信学会フェロー。

**受賞等:** 昭和50年 電子通信学会米沢賞、昭和58年 日本科学技術情報センター丹羽賞、昭和62年 情報電子通信学会著述賞、平成7年 ACM SIGMOD Contribution Award、平成11年 Twentieth Century Achievement Award: The International Institute for Advanced Studies in Systems Research and Cybernetics。

**社会貢献活動:** 通商産業省技術審議会大型技術開発部会分科会専門委員、科学技術庁科学技術会議専門委員、日本科学技術情報センター情報科学技術委員会委員、ACM 日本支部副支部長、NTTコミュニケーション科学研究所シニアアドバイザー、科学技術情報振興賞選考委員会委員、日本学術会議 情報学研究連絡委員会委員 工学教育委員会委員、京都市「情報新世紀・京都21」推進懇談会委員、科学技術庁 科学技術情報流通体制分科会委員、(財)比較法研究センター 評議員、(財)情報科学国際交流財団評議員、国際高等研究所 情報・出版委員会委員、(財)ソフトウェア工学研究財団評議員、(財)ソフトウェア情報センター評議員、京都市21世紀産業振興ビジョン策定委員会委員、総務庁総合科学技術会議専門委員、文部科学省情報科学技術・学術審議会委員、文部科学省科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター科学技術専門家ネットワーク専門調査員、文化庁 文化審議会著作権分科会専門委員、日本データベース学会会長、電子情報通信学会情報システムソサイエティ会長。

### 4. おわりに

上林弥彦先生は常にウィットとユーモアに溢れた人柄であった。先生が九州大学の教授をされていたときに、前述の牧之内顕文氏を富士通から九州大学の教授に迎えたのだが、その人事に関して我々に対する報告の件：「(教授会で)牧之内さんを無茶苦茶褒め上げたんや、こんな素晴らしい人はいない言うて...、そしたら九大の先生が言うんやー、なんでそんな立派な人が九大に来てくれるんやて...アハハハ」。上林節は、一事が万事こんな調子であった。いずれ、極楽浄土で再会するだろう。その時はまたデータベースを大いに語りたい。ご遺族には、御礼室紀子様、二人の御息がいらっしゃる。心より、上林弥彦先生のご冥福を祈る。

#### 増永 良文 Yoshifumi MASUNAGA

お茶の水女子大学理学部情報科学科教授。1970 東北大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。情報処理学会データベースシステム研究会主査、情報処理学会監事、ACM SIGMOD 日本支部長などを歴任。情報処理学会フェロー。電子情報通信学会フェロー。日本データベース学会会長。著書に「リレーショナルデータベース入門[新訂版]」(サイエンス社)など。